

かぐらおか

第 151 号

平成25年 2 月 1 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)



クリスマスコンサート (大学病院ロビー)

(写真撮影：学生支援課)

教授就任のご挨拶	秋田谷龍男	2
教授就任のご挨拶	濱田 珠美	3
授業評価 (平成24年度前期)		4
平成24年度医学科第 2 学年後期編入生入学式		27
リーダーシップ表彰		27
「全日本医科学生体育大会王座決定戦で優勝して」	竹口 史織	28
音楽系クリスマスコンサート		29
教員の異動		30
討 報		30
インフォメーション		30
平成25年度授業料の一括納付について		30



教授就任のご挨拶

化 学 教 授 秋 田 谷 龍 男

平成24年10月に本学医学部化学教室教授に就任しました。よろしくお願い申し上げます。

私は札幌生まれの札幌育ちですが、約25年間北海道を離れ、今再び戻って参りました。北海道大学教養部理類で物理科学系への進学を志していた私は、ふとしたきっかけで「生物物理学」という当時新興の学問の存在を知り、さらにその分野で著名な先生が薬学部にいっしょのことを知って、はじめの予定とはまったく異なる道に進学したことが、医療科学とのそもそもの出会いでした。教授の小島陽之助先生（故人）は非平衡の熱力学の我国における代表的研究者で、生体膜の電位発生機構やイオン透過機構、さらには味覚・嗅覚、アメーバ型細胞の走化性、細胞運動、生体リズム、形態形成などの分子機構を物理化学的に解明するという先駆的な研究を進めておられました。研究スタイルは、生物のマクロでダイナミックな現象を、非線形非平衡物理学を理論的基盤としながらも、あくまで実験を基本に進めるというものでした。これが私の研究姿勢の原点となり、以来様々な場所で多様な研究テーマに出会いながらも、結局のところ、この原点にこだわり続け、現在に至っています。

大学院時代は生命現象の動的な特徴をなんとか物理化学的にかつ実験的に解明しようと奮闘していましたが、自身の実験技術や知識を広げたいと願い、学位取得後すぐに企業研究所（日立化成工業（株）医薬品研究所（当時茨城研究所））に勤務することとなりました。そこから医療への応用を期待したバイオセンサーの開発を皮切りに、1989年から3年2ヶ月のカリフォルニア大学Irvine（アーバイン）校（UCI）への留学では、Marianne Bronner先生（現カリフォルニア工科大学教授）の許での“ニワトリ胚神経堤細胞の脊髄神経節形成機構の研究”、後半はUCI医学部に隣接したHitachi Chemical Research Centerで、“臨床診断を目指したmRNA測定キット（DNA固相固定化デバイス）の開発”を行いました。発生物学から分子生物学にわたるエ

キサइटィングな研究に日々夢中になっていたのですが、皆様もご存じの突然の不況で、私も日本に帰ることになってしまいました。1992年の3月からは、アメリカで発明した技術を改良するための基礎開発研究、臨床応用を模索するための医学部・医療機関との共同研究、製品の設計、製造・検査仕様の作成、工場への技術移管、営業部門への情報移管と顧客への同行説明等々に多くの時間を費やしました。この間多くの大学医学部の諸先生と共同研究できたことが、本学で教育や研究を進める上で大いに参考になるのではと期待しています。

縁あって京都大学大学院理学研究科（物理学第一教室）の吉川研一先生が主催するCREST「分子複合系の構築と機能」の研究員として採用して頂いたのは2000年の3月でした。「長鎖DNAの1分子内折り畳み転移の分子機構と生物学的意義の解明」という、大変魅力的なテーマにここで出会うことになりました。それが現在までの私の主要な研究テーマです。

2004年4月から名城大学薬学部の准教授として採用され、本年9月までお世話になりました。その間、おりしも4年制から6年制への転換があり、新モデルコアカリキュラムの下でOSCEやCBT、実務実習の構築に立ち会って参りました。この体験を旭川医科大学の教育理念とシステムの理解に役立てたいと願っています。また、初年次準備教育の改編にも参加して学生の学力低下を痛感しましたが、他大学薬学部に先駆けて初年次補習授業を立ち上げるという大変良い経験をする事ができました。わが国全体の問題である近年の学力低下に対して、初年次教育の果たす役割は非常に重要で、一般教育教員にとって心して取り組むべき課題です。私は学生たちの可能性を信じながら、また、大学のご理解とご支援を期待しながら、私の経験を多少なりとも生かして教育に取り組んで参ります。一研究者としてまた一教員として一步一步日々努力して進みます。皆様、よろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

看護学講座
がん看護学 教授 濱田 珠 美

この度、11月22日付で看護学講座の教授（がん看護学担当）を拝命いたしました。

私は、平成元年に看護師免許を取得後、北海道大学病院に就職し、看護師としての臨床経験を第一外科からスタートしました。第一外科は、消化器がん、乳がん、肝臓がん、小児がんなどに対する先進治療とケアの一つ一つを学ぶ場となりました。次に、第一内科に転属となり、現在の研究と関係が深い肺がん患者への先進治療とそのケアに悩みながら取り組みました。こうしたがん患者に対する外科・内科治療を臨床経験の中で学ぶ期間を得たことが、今の私のがん看護学の教授の基盤を豊かなものにしてくれたと考えています。その間には、直接的ではないかもしれませんが、旭川医科大学でご活躍中の諸先生とも、患者さんを通じて関わる時期があったかもしれません。

がん看護を探究するため、私は平成14年聖路加看護大学看護学研究科（修士課程）に進学し、日本のがん看護学の権威である小松浩子教授（現：慶應義塾大学看護医療学部）のもとで進修期の肺がん患者の治療期の看護ケアについて、質的研究に取り組みました。修了後は、北海道大学保健学科の教員としてがん看護学の教育に従事し、聖路加看護大学看護学研究科（博士課程）に社会人入学し、量的研究に取り組み、学位取得まではチャレンジフルな日々を送りました。その間に、縁あって聖路加国際病院名誉理事長日野原重明先生から旭川医科大学医学部看護学科高度実践コースの責任者着任のお話をいただき、平成21年に准教授として着任しました。

今日、がん先進治療の進歩は目覚ましいものがあります。がん化学療法は病態を制御し、わずかずつ、ですが、着実に延命を可能としてきました。このことは、肺がんを例に挙げると、肺がん患者とその家族にとって恩恵となりましたが、治療を続け延命する生存の質（The Quality of Survival）が課題となりました。そこで、治療にとまなう症状の負担とのバランスが保たれ、ヘルスケアアウトカムである個

々のQuality of Life（QOL）を高めることがより重要とみなされるようにもなりました。こうした高度化・複雑化するがん医療において、旭川医科大学大学院高度実践コースが育成するがん看護専門看護師の能力・役割への社会的要請が高まっています。また、がん看護専門看護師は、がん患者やその家族に対してQOLの視点に立った水準の高い看護を提供することのみならず、がん医療の質の向上を目指す組織が有機的に機能するような変革をもたらすチェンジエージェントになることも期待されています。そこで、がん看護専門看護師教育課程は、現行26単位から38単位へ、平成30年3月までに移行が求められており、大きな課題として、諸先生のご支援を得ながら挑戦的に取り組みたいと思います。

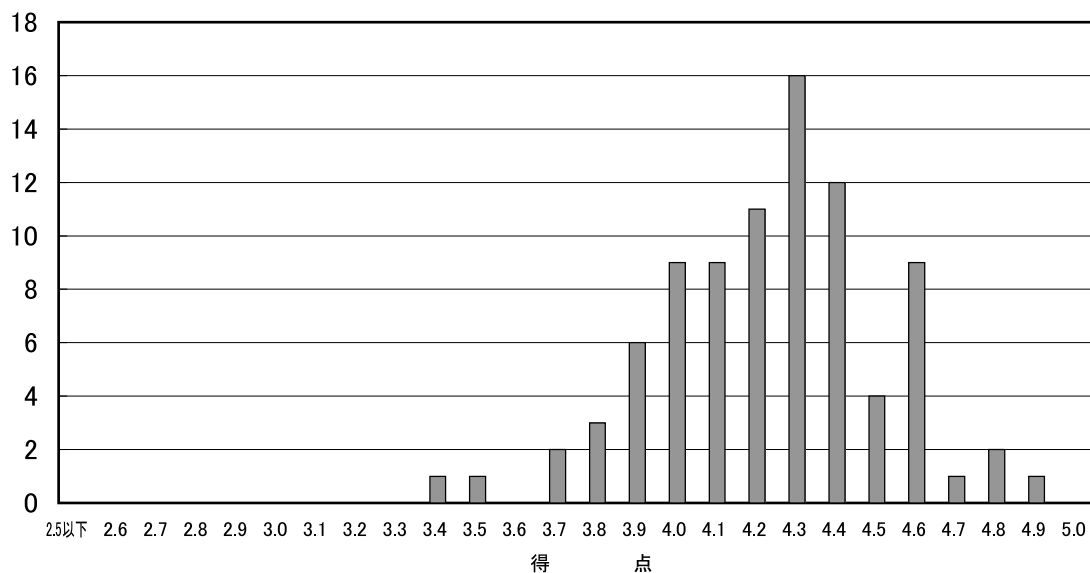
平成24年11月現在、北海道におけるがん看護専門看護師数は11人、がん診療連携拠点病院は21施設です。まだまだ、がん看護専門看護師は、北海道のがん患者とその家族の治療と生活を支援する身近な存在とはなっておりません。このようなニーズから、実践に役立つがん看護の基礎教育を受けた学部生、北海道のがん看護のリーダーとなるがん看護専門看護師を目指す修了生を輩出する責任を重く受け止め、道北・道東をはじめとする北海道の医療に資する高度の医療人を輩出することを目指す旭川医科大学の一員として、貢献することに努めていきたいと思っています。

最後になりますが、研究では、現在、文部科学省科学研究費助成金を受け、「標準的治療を受ける進行非小細胞肺癌を持つ人のライフサポートプログラム開発」を進めています。日本のがん看護の質を向上するエビデンスを北海道から発信し、がん医療の発展とがん患者とその家族の恩恵のために努めてまいります。学内外の諸先生・看護者の皆さまの御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

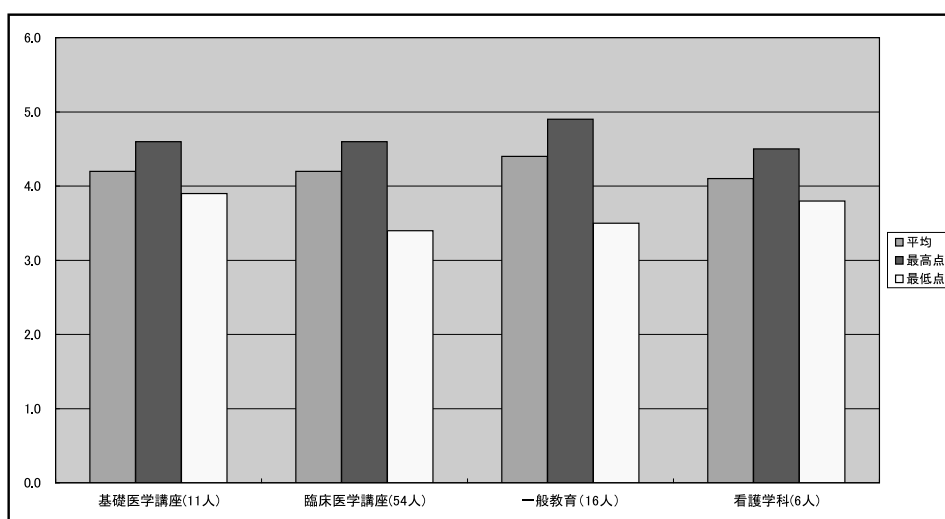
平成24年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得										点															
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	6	9	9	11	16	12	4	9	1	2	1	0

(実施人数87名 平均4.2)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。 ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い） ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない） ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：自然科学入門（化学系）（医学科第1学年前期／選択必修）

履修者数：6 配付数：6 回収数：6 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.7	4.2	3.2	4.0	4.7	4.2	4.7	3.7	4.0	3.7	4.0	3.8	4.5

*評価に対するコメント

自然科学入門（化学系） 担当教員

評価は全般に昨年と同様であった。センター試験の選択内容で自動的に3科（化学・物理・生物）へ振り分けられたらしい今回も、化学Ⅱ未履修者はいなかったため、昨年までと概ね同様の内容で実施した。毎回のタスクでは所要時間に少々個人差がみられたが、2回の確認試験について過半数が合格基準を容易に超えた。苦手分野が各自で大いに異なる傾向と自由記載の意見に対応して、次年度は、有機化学分野の時間を増やすこと、毎回のタスクについて時間配分を各自に任せることを試みたい。

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／選択必修）

履修者数：46 配付数：45 回収数：31 回収率：68.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.7	4.1	3.0	3.5	3.9	3.5	3.9	3.5	3.3	3.4	3.1	3.3	3.4

*評価に対するコメント

自然科学入門（物理系） 担当教員

今年度からA組とB組の2クラス編成で開講した。総合評価は昨年より0.4増加し、各項目の評価も若干増加した。改善点は0.4減少した問13の試験内容に関する点である。問1と4の自己学習の評価が依然低い。学習不足が試験内容の把握不足を招いた可能性も捨てきれない。本科目は主に物理未履修者を対象としたリメディアル科目であり、今後の講義科目に必要な最小限の知識習得を目指す。開講期間は短いがいっしょに学んで欲しい。

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／選択必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.8	4.1	3.6	4.1	4.4	3.9	4.5	4.0	3.9	3.8	3.7	3.9	4.1

***評価に対するコメント**

自然科学入門（生物系） 担当教員

本年度は高校生物の未履修者の割合が高いことが予想されたこともあり、昨年度よりも小テストの回数を増やし、個別指導の機会を多くしました。そのため昨年度よりも高い評価をいただきましたので、その点は今後も継続していきたいと考えております。反面、小テストの回数を増やした分、授業の進行が遅れがちになりました。また、本講義では「高校生物」で履修する範囲全体を網羅しているわけではなく、限定的で基礎的な内容を取り扱っております。本講義の授業範囲をどのように増やしていくか、授業形態も含めて検討すべき課題と考えております。

科目名：医療概論1（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：116 配付数：112 回収数：104 回収率：92.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.7	4.7	3.8	2.3	4.0	4.1	4.0	4.2	4.1	4.0	4.0	3.7	3.6	4.0

***評価に対するコメント**

医療概論1 担当教員

授業・試験の内容・方法等は例年通り。コアカリの中の「医の倫理と生命倫理」に完全準拠。評価平均値もほとんど変化なし。平年値をキープしているから良しとすべきか、上昇していないからダメなのか。よくわからない。気になるのは、平均値は同じでも評価を仔細にみると、2年前までは4点（まれに5点）でほぼ揃っていたのが、5点をつけた者と2点以下をつけた者の割合が昨年から増えてきたこと。5をつけたのは苦勞せずに理解できた層、2以下をつけたのはよく理解できなかった層ということになるのか。自由記載欄のコメントも同様に分化した。学力格差を象徴する事実と受け止めている。授業中に配布した過去問の類題を正解できない学生が、昨年より増えた。試験対策をほとんどしない学生の増加である。いろいろ考えねば・・・。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：110 配付数：99 回収数：83 回収率：83.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.8	3.7	2.3	4.0	3.3	4.0	4.4	4.2	4.3	4.0	3.9	3.8	4.0

***評価に対するコメント**

地域医療学 担当教員

総合評価が4点と、こちらの意図がまずまず学生に伝わっているものと判断します。

一部授業の意義について誤解のある学生もいることから、来年度に向けて、さらなる改善を検討したいと思います。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：78 回収数：66 回収率：84.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	3.5	3.3	2.8	2.8	3.0	2.8	3.1	2.9	2.5	2.7	2.4	2.9	2.6

***評価に対するコメント**

情報統計学 担当教員

「検定」の項目に入れなかったのは反省点であると思います。60分×15回（1単位）の講義ではなく、90分×15回（2単位）であれば「検定」の項目も講義可能であったと思います。時間的制約を考慮して講義の後半部分ではスライドを開いて、テキストに沿って講義を行いました。進行が早すぎたのかもしれないことが反省点です。スライドはパワーポイントで作成したと勘違いされていますがそうではありません。最後に中間試験、期末試験ともに平均点が前年度よりかなりアップしましたことを言及しておきます。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：112 回収数：108 回収率：96.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.6	3.8	2.4	4.0	4.1	4.1	4.3	4.1	4.3	4.1	4.2	3.8	4.2

***評価に対するコメント**

心理学 担当教員

学生自身についての評価では、「予習」と「復習」の評価が2.1、2.4と低く、予習・復習の指導が必要であろう。一方、科目構成と内容についての評価（問5から問8）は3.8から4.3、全体の満足度は4.2とある程度高い評価が得られた。これは、各分野の基礎知識を精査して講義したこと、配布を綴じると心理学の入門書となるように構成したこと等が考えられる。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：115 配付数：109 回収数：86 回収率：78.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.3	3.8	3.3	4.3	3.9	4.1	4.4	3.9	3.7	4.0	3.8	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

生化学1 担当教員

生化学1は代謝の基本的な部分に関する内容で、2年次では医学部らしい講義と言えます。御意見は2種類、良かった・面白かった（13/24）、並びに建設的な批評・コメント（11/24）でした。特に講義の時のレポート・小テストの評価が高く（6/24）、復習して理解を深めることに活用していただいたようで、嬉しく存じます。建設的なご意見は今後に生かしていきたいと思いますが、細かいご指摘のいくつかについてちょっと気になり、念のためスペースを拝借します。大学は予備校とは違います。予備校は大学に合格させたら終わり、そのためには手取り足取り、キーワード解説/単語帳/模範解答///、ありとあらゆる世話を焼いてくれます、ただし出席は取らないかもしれません。大学では、諸君を自立した高度専門職に仕上げるためにカリキュラムが組まれていて、グライダーを飛ばすことに例えられると思います。ずーっと引張っていることはできません、最後には諸君たち自身で、自立した医師として、飛んでいってもらうなくてはなりません。患者さんを診て、考えて仮説を立て（診断し）、検査を組み、結果・経過を観て、仮説を修正しながら治療を進めていくという過程の中で、常に臨機応変/ケースバイケースの対処が求められます。それには、自分で観察し、自分の知識に照らして考え、判断する必要があり、今はその準備期間です。自分でキーワード解説をまとめ、自分で単語帳を作り、自分で模範解答を書くことは、大変よい準備作業といえます。医師を目指す初心に帰り、志を掲げて日々精進する姿勢を、自分なりに物にして行って頂きたいと存じます。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：115 配付数：113 回収数：69 回収率：61.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.4	4.0	3.6	4.3	4.1	3.8	4.3	3.5	3.5	3.8	3.7	3.5	3.8

***評価に対するコメント**

生化学2 担当教員

生化学2は生化学1に引き続いて人体を機能させている代謝について、病態と関連付けて紹介しています。主な御意見は2つ、難解・分量過多（8/17）、面白い（4/17）でした。前者については、本試不合格者が生化学1より倍増したと関連がありそうですが、医学生としての自覚をもう一度見つめ直して頂きたいと存じます。何故、医師が高度専門職と言われるのか、面接のときに諸君が述べていた医師を志す熱い思いはどこに行ったのでしょうか。10年分の過去問は一通り抑えたのでしょうか、分からなかったら質問に来て下さい。医学固有の単語や概念の山を、とりあえず詰め込んで行くのは、古今東西、医学生の宿命です。まだまだ先は長い、解剖、生理、病理、法医、公衆衛生、臨床科目ですが、必ず飽和して閉じた世界であることが見えてきます。

面白いという評価の中にもありましたが、人体とはすなわち我々の体です。その機能する仕組み、病態との関連、コレステロールが増えるとはどういうことなのか、黄疸とは何か、痛風とは、既に諸君は一般の人にはできない説明ができるようになっていきます（はずです）。頑張ってください、良い医師を目指して下さい。もちろん、人生のこの時期にしかできないことも多々ありますし、知識だけで良い医師になれるということもありません。存分に旭医を堪能し貪り尽くして、良い医師になるための糧として頂きたいと思います。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：111 回収数：85 回収率：76.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	3.9	3.7	2.9	4.0	3.6	3.9	4.2	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1

***評価に対するコメント**

免疫学 担当教員

ほぼ4点付近の評価を頂きました。各担当の先生方の講義への真摯な取り組みに感謝いたします。免疫学は各領域にまたがっており、教えることも、また理解することも難しい学問ですが、なるべく学生さん達に免疫学の楽しさを伝えることが出来るような授業を、今後も展開していきたいと考えております。

科目名：医療概論2（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：112 回収数：94 回収率：83.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.3	3.6	2.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	3.9	4.0	3.9	3.9	4.0

***評価に対するコメント**

医療概論2 担当教員

臨床概論Ⅱでは、医療や臨床研究に関する倫理的・哲学的な内容が中心で、医師として適切に社会へ対応できる考え方を築く重要な科目です。予習・復習はあまりされていないようですが、シラバスを見て最低限の準備をし、毎回復習すると良いと考えます。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：115 配付数：112 回収数：84 回収率：75.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.7	3.0	4.0	3.9	3.8	4.1	3.7	3.5	3.8	3.7	3.8	3.8

***評価に対するコメント**

医用機器学 担当教員

最近医用機器はどんどん新しくなっており、それに対応するべく先端のプロテオームおよびゲノム解析等を含めた医用機器の講義を網羅したカリキュラムに一部工夫・改善しました。

また、講義の一部に動画を採用し、医用機器の実用例をわかりやすく説明するよう工夫しました。

講義出席率も昨年より若干改善され、全体として0.27点昨年より評価点が向上しています。来年度は、プリントを事前に配る等して予習しやすいように改善するとともに、学生の積極的な予習・復習努力にも期待したい。

科目名：組織学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：116 配付数：110 回収数：59 回収率：53.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.7	4.2	4.3	3.6	4.1	3.6	3.7	3.8	3.2	3.2	3.8	3.6	3.4	3.5

***評価に対するコメント**

組織学 担当教員

新カリキュラムになって3年目となり、この科目の実施方法や成績評価方法は、ほぼ完成した。本科目では成績判定基準を事前に周知するとともに試験結果を詳細にわたりすべて公開し、公正で透明性の高い成績評価を心がけている。そのためか「授業評価」のコメント欄に学生からの愚痴は散見されるものの、傾聴に値する建設的な意見・批判などは見られないので、来年以降もこの方針を変えず、この科目を運営していく予定である。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：123 回収数：117 回収率：95.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.6	4.4	3.8	4.1	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。多くの建設的なフィードバックをありがとうございました。今後の授業計画に反映していきたいと思っております。昨年度は、選択コースのクラスサイズが大きすぎるとの指摘がありましたので、本年度は、選択コース数を増設して対応しました。選択コースに関しては、満足しているというコメントがあり、効果が表れたような印象を抱いています。本年度も、情報発信型の授業における授業参加に関する数件の指摘がありました。どのようにして積極的な授業参加を促すかという問題を今後検討すべきであると考えています。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：120 回収数：75 回収率：62.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.7	3.7	2.7	3.8	3.2	3.5	3.9	3.7	3.6	3.8	4.0	3.6	3.9

***評価に対するコメント**

心肺病態制御医学 担当教員

担当の先生方には、ただ頭の下がる思いだが、コーディネーターとしては、学生の厳しい意見にも配慮をと願わざるを得ない。多方面から語られる循環器・呼吸器の講義内容に重複が生じるのはやむを得ないことでもあろう。授業展開が短期集中型でなければ、むしろ反復が知識を確実にする効果も期待できるはずである。臨床講義系の最初の数ヶ月で終了してしまう循環器・呼吸器の知識は、臨床実習にたどり着いた頃にはかなり危うい状況にある。講義展開の方法にも一工夫が必要であるかもしれない。

科目名：医療概論3（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：122 回収数：75 回収率：61.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.2	3.8	2.7	3.9	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	3.9	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

医療概論3 担当教員

医師として実社会で活動する際に必要な、法的・倫理的責務、保健医療福祉にかかわる国の政策・制度・現状と課題、ワークライフバランスなど広く学ぶものである。昨年からの大きな変更点として、ワークライフバランスの演習を取入れる一方、医療廃棄物処理の見学を廃止した。評価は昨年度と大きな違いはなかった。「学習意欲を高める授業か」が比較的低評価であるが、多様な内容のオムニバス方式の科目の難しさのためと思われる。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：119 回収数：74 回収率：62.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.1	4.0	3.1	4.0	3.4	3.8	4.1	3.9	4.0	4.0	4.2	3.9	4.1

***評価に対するコメント**

消化器医学 担当教員

平成23年度では、問1、問4、問6の点数が低値であったが、平成24年度は改善が見られ、消化器外科に興味をもつ学生が増加したと解釈したい。前回は問6で指摘される重複が問題となり、非常勤講師の先生には個性ある講義をお願いし、画像を多く用いていただくなど好評な面もあった。しかし、依然重複や数値の不一致などの指摘があり、同じ分野内でプレゼン内容を公開していただくなどの重複解消の努力をしたい。また、試験が難しくすぎるといった意見が多く寄せられており、次回テスト時には改善したい。

科目名：整形外科学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：73 回収数：17 回収率：23.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.7	2.4	4.0	4.3	4.4	4.5	4.1	3.8	3.9	3.5	3.8	3.8

***評価に対するコメント**

整形外科学 担当教員

良い医師になって欲しいという期待から、より良い授業にしたいと思う。その為の学生評価だと思う。

しかし、101人中17人の結果しか得られていず、学生自身の努力（問1－4）の点数も低い。これは学生の講義に対する関心や意欲の無さを表していると推察する。

構成（問5－8）は平均4.3で良いようだが、内容（問9－13）は平均3.8とやや低い結果だった。これは医師としての心構えや考え方のプロセスを学ぶ事も、講義の到達目標とした為だと考える。今後は、更に履修内容を充実させていく。

科目名：法医学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：90 回収数：37 回収率：41.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.5	4.3	3.1	4.4	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4

***評価に対するコメント**

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に位置しているが、その内容は、的確な死体検案書を書ける臨床医になるために必要な知識を教える科目である。屋内や屋外で亡くなっているヒトを診て、検屍（検案）ができることを目標としている。その講義が、学生に興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：101 回収数：31 回収率：30.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.3	4.1	2.7	3.9	4.2	3.7	4.3	3.5	3.5	3.6	3.9	3.3	3.6

***評価に対するコメント**

臨床放射線学 担当教員

学生諸君にはアンケート協力を感謝します。他科と連携した講義内容の再構築は、確かに教育の観点から有用だと思います。準備には関連する他の講義担当教員との相談の上、かなりの時間を要するので、すぐに実行に移すという訳にはいきませんが、教育センターとも協議したいと考えます。

科目名：麻酔・集中治療学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：94 回収数：51 回収率：54.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.3	4.0	2.9	4.0	4.1	4.0	4.3	4.0	4.0	4.1	4.3	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

麻酔・集中治療学 担当教員

本年度から新たに開講された教科で、従来の臓器別・系別講義Ⅷから整形外科領域が離れ、麻酔・集中治療学が独立、麻酔・蘇生学および救急医学の2講座で担当することになった。したがって、履修内容も昨年の半分になり、毎年配布している講義のスライドや配布資料を、今年度は1冊子に集約、講義の理解や復習の際に役立つとのことで非常に好評を得た。今後も履修内容に関して見直しを図り、より中身の濃いまとまったものになるよう改善に取り組んでいきたい。

科目名：腫瘍学2（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：95 回収数：57 回収率：60.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.3	3.5	3.2	3.4	3.5	3.2	3.6	2.5	2.8	3.0	2.9	2.1	2.7

***評価に対するコメント**

腫瘍学2 担当教員

必修科目になり初めて、昨年度の第3学年後期の「腫瘍学1」に引き続き、第4学年前期に各臓器のがんの治療法に重点を置いた「腫瘍学2」が開講された。自由記載では、他の講義と内容の重複が多い、試験が難しすぎるなどの意見が出されており、これらについてはできるだけ改善していきたいと考えている。しかし、今後の医療において「腫瘍学」はますます重要になっていくことを学生の側でも認識し、「腫瘍学1・2」を各臓器の標準的治療法とその基盤を総合的に理解するための勉強の機会として欲しい。

科目名：衛生・公衆衛生（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：101 配付数：94 回収数：33 回収率：35.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.7	4.0	2.6	4.1	4.0	3.8	4.4	3.9	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3

***評価に対するコメント**

衛生・公衆衛生 担当教員

本講座は、環境医学、産業医学から医療制度や法律までにまたがる比較的ボリュームが大きい大変な科目でした。しかしながら、医師として、住民の環境や職場の状況、さらに社会、制度等との関わりを理解しておくことは実践面でも重要なので、ぜひ予習・復習を欠かさず勉強して下さい。

科目名：生殖発達医学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：102 配付数：99 回収数：23 回収率：23.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.5	4.2	2.8	4.0	4.1	3.7	4.1	3.6	3.7	4.0	4.2	3.5	3.7

***評価に対するコメント**

生殖発達医学 担当教員

生殖発達医学は配偶子形成から、胎児発育、小児期の発達を中心に産婦人科、小児科、泌尿器科、救急、外科が担当する、毎年学生の負担が大きいと評価される授業科目である。その点を考慮すれば、一定の評価を得たものと考えている。従来と同様、試験問題を回収したが、その点に対する批判が見られ、学生への還元方法を再度検討したい。

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.6	4.5	3.8	2.2	3.7	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.0	4.1	4.3	4.2

***評価に対するコメント**

医療史・医療哲学 担当教員

看護にとどまらず広く医療の、過去・現在・未来を探究する教養科目である。講義4割、DVD教材視聴4割、作文2割からなる。評価は例年とほぼ同じであった。平年値をキープしているから良しとすべきか、上昇していないからダメなのか。判断に迷う。作文から判断する限り、講義はおおむね理解されている。具体的・実践的な問題を扱える看護社会論とは異なり、どうしても内容が抽象的・観念的になってしまいがちな点を反省し、来年度も頑張りたい。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.5	4.5	3.7	2.2	3.8	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	4.0	4.0	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

医療史・医療哲学 担当教員

看護界の現状を広い視野から眺め、学生の将来展望に役立てることを意図した教養科目である。講義4割、DVD教材視聴4割、作文2割からなる。評価は例年とほぼ同じであった。平年値をキープしているから良しとすべきか、上昇していないからダメなのか。判断に迷う。学生参加型の授業を心掛けたが、こちらの問い掛けに手を挙げる学生は少数である。しかし、作文から判断する限り、講義はおおむね理解されている。しかし、文中の言語体系を仔細にみていくと、学生との年齢差を強く意識させられる。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.8	4.2	3.7	2.2	3.7	4.0	4.0	4.1	3.9	3.8	3.8	3.5	3.9	4.0

***評価に対するコメント**

情報リテラシー 担当教員

この教科は、予習や復習を必要としない授業を行っています。そのため、問1、2の回答は低い評価値になるかもしれません。問3での回答が“4”や“5”とする履修者が70%を占めているように、とても集中して受講している印象を受けました。また出席率は非常によく熱心に勉強していました。昨年、一昨年に比べ受講姿勢とリテラシー技術の向上がうかがえました。パソコン操作に慣れない履修者もよく質問をし、じっくり取り組んでいましたので上達の様子が確認できました。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.7	3.9	3.5	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.1	4.2	3.8	4.4

***評価に対するコメント**

看護学概論 担当教員

評価をみると、予習・復習がしにくかったと思われます。来年はシラバスに予習すべき事柄を記述するよう改善します。レポートの書き方について、参考文献を示すのみでは不足であり、大学生としてレポートを書く力を涵養すべく、講義時間での事前・事後解説を丁寧に行うことにします。他の医療職による講義は今年も好評であり、次年度も継続を予定しています。ただ講義を聴くだけにならないように、事前学習などを工夫していきたいと考えています。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：52 回収数：50 回収率：96.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.0	3.6	2.5	3.7	4.1	4.1	4.0	3.8	3.5	3.7	3.5	4.1	3.9

***評価に対するコメント**

看護化学 担当教員

例年、化学Ⅰはほぼ全員履修済みであるが、化学Ⅱと生物Ⅱの未履修者はいずれも半数程度であったため、高校の生物と化学が重複する分野の復習を中心に実施した。評価の数値は、全般に当教室が担当する他科目と同等であった。自由記載のコメントでは、試験対策のみを希望する旨が読み取れる一方で、毎回の授業後の質問・感想では、コラム的内容を歓迎する意見もあり、今後も高校理科のレベルで理解できる医療・環境系の話題のブラッシュアップや指定教科書の検討を続ける。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.0	4.0	3.7	2.8	3.8	4.2	4.4	4.3	4.1	3.8	3.9	3.4	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

看護基礎物理 担当教員

看護基礎物理の内容は高校で物理を未履修の学生に合わせています。今年はこれまでよりも内容を理解しやすいように努力したために評価が少し改善しました。しかし、まだ内容が難しいと訴える学生がいますので、さらにわかりやすく理解できるように改善したいと思います。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：56 回収率：93.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.0	3.8	3.1	4.0	4.1	4.1	4.3	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

生命科学 担当教員

本年度の総合評価は昨年度より0.2ポイント上昇したが、ここ数年の評価はほぼ一定している。ただ、問5や問9は4.0とやや低いことから、全体的なガイダンスで講義内容や進め方を明確にすること、さらには、個々のテーマごとの難易度を揃えるなど改善すべき項目が明らかとなった。また、学生の予習復習時間が極めて少ないため、課題やアサインメントを課すような対応なども考えてみたい。講義時の質問カードは、講義内容に関する疑問や質問に答える役割が果たせたためか、学生には概ね好評であった。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年・第2学年前期／必修）
履修者数：120 配付数：117 回収数：117 回収率：100%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.2	3.6	3.3	3.9	4.1	4.0	4.2	3.9	3.8	3.9	3.9	3.6	4.0

***評価に対するコメント**

発達心理学 担当教員

学生自身についての評価では、予習と復習の評価が2.1、3.3と低く、予習・復習の指導が必要であろう。一方、科目構成と内容についての評価は3.6から4.2、全体の満足度は4.0にとどまった。また、本年度は時間割の変更により第1学年と第2学年を合同で実施したためか、学力レベルの分散が大きいに感じられた。今後は、これらの分析結果に基づいて、全体の進行や指導力を改善してゆく必要がある。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：56 回収数：44 回収率：78.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	3.2	2.9	2.9	3.3	3.1	3.3	3.4	3.0	2.5	2.9	2.6	3.2	2.7

***評価に対するコメント**

統計学 担当教員

「統計学は使うが、手計算はほとんどしないため統計ソフトを教えてくれたほうがよい」という意見がありました。統計ソフトを用いた結果に対する統計学の理論的な裏付けを学ぶことは大切であると考えます。またPCが使えない環境で統計学の計算が必要となる場合も考えられるので手計算を学ぶことも有益と考えます。統計学を座学で行うかソフトウェアを用いて実習形式で行うかは検討課題とします。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：58 回収数：47 回収率：81.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	3.8	3.5	2.7	2.9	3.3	3.2	3.3	2.8	2.4	3.0	2.5	3.0	2.3

***評価に対するコメント**

公衆衛生論 担当教員

要点を図解や表にした予習シートに空欄を設けておき、教科書を読み空欄に書き込んでから、授業に臨むことを予習課題としました。また学習成果物を学生自ら管理するためにポートフォリオ・サマリーシートを事前に配り、「～の概念について理解できた」「～について図解を試みた」などの自己評価を記入し、その都度自ら要点を確認することを課しました。どこが重要か分からなかったという記載があったこと自体、奇異に感じます。基本的な用語や法律名を問う小テストを2回実施しましたが、1回目では24%が再試となり、2回目では33%が合格点スレスレの成績でした。専門職の勉強において、自ら学習しないで達成できるはずがないのです。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.2	4.8	4.3	4.4	4.4	4.2	4.0	4.3	4.0	4.3	4.2	4.3	3.6	4.5

***評価に対するコメント**

看護過程論 担当教員

看護過程は看護実践に不可欠な思考のスキルです。紙上事例を用いて、講義・グループワーク・全体発表により看護過程を展開することを学ぶのですが、「個人学習」すなわち課外の取り組みが重要です。個人がしっかり課題に取り組んでグループワークで学びや疑問を共有し、教員の助言を得つつ思考を進めていきます。ほぼ毎週の課題提出を課したためか、問13は3.6でした。多くの学生は期日に遅れることなく課題提出を行い、学習に取り組んでいました。

科目名：地域保健看護学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：70 回収数：67 回収率：95.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.7	3.6	4.0	3.9	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.1

***評価に対するコメント**

地域保健看護学Ⅰ 担当教員

この講義は、日本の保健・医療・福祉の歴史をとおして地域保健看護のあり方およびこれからの自己の学習課題を展望できることを狙っています。具体的に地域を基盤とした保健看護活動について理解できることを目的としています。総合評価は、4.1で学生の皆さんはおおむね満足したように思います。問12, 問13はいずれも3.9で、早期体験実習後だとより関心をもって講義に参加できたという評価があり、今後は、具体的なイメージがわき興味・関心が高まる講義を工夫したいと考えます

科目名：家族看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：70 配付数：69 回収数：49 回収率：71.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.5	3.3	3.3	3.1	3.2	2.9	2.9	3.1	2.5	2.7	2.4	2.9	2.6

***評価に対するコメント**

家族看護学 担当教員

学生の自分自身に関する評価項目を見ると、「授業への出席」が4.5と高い。「日々予習をする」は2.6と低い。教員の科目内容に対する評価項目は、「予習をしている」よりさらに低い。学習の成果はともあれ学生は、受身・知識中心、講義形式の学習方法が好きなようである。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：55 回収数：53 回収率：96.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.6	4.2	3.8	4.3	4.3	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.3	3.8	4.2

***評価に対するコメント**

成人看護学Ⅱ 担当教員

成人看護学Ⅱは、周手術期看護の総論的な部分と、脳神経、呼吸器、循環器、消化器の手術を受ける患者に対する看護で構成されています。

授業準備については、予習につながるような課題を事前に提示していますが、単なる課題と学生は（問1. 3.6点、問13. 3.8点）考えているようなので、課題による予習が講義に関係していることをガイダンスで強調する必要があったと思います。科目構成、科目内容、総合評価は概ね4点台と良好なので、この点は継続できるように授業を工夫していきたいと思います。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：68 回収数：56 回収率：82.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.6	3.9	3.6	4.0	4.0	3.7	4.1	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	3.7

***評価に対するコメント**

がん看護学 担当教員

「がん看護学」は、開講から2年目を迎えました。今年度は、講義に続き、学生の誰しものが将来一度は出会うがん患者事例（乳がん）について、GW演習により対象理解を深かめ、ロールプレイによる看護技術の習得を一連として目指すプログラムが昨年以上に好評価を得ました。一方で、がん医療の高度化、複雑化により、学生の皆さんの学習期待は高まっています。今後は、さらなる効率的学習を、事例の洗練により、取り組みたいと思います。

科目名：保健福祉行政論Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：69 回収数：35 回収率：50.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.8	3.5	2.8	4.0	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.1	3.9	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

保健福祉行政論Ⅱ 担当教員

問1：予習、問4：復習・宿題の評価が悪かったのは、集中講義で3日間に全て項目を講義したのでその時間がなかったためと思われます。来年度以降は学内の教員が担当されることをお勧めします。

学生のコメントに対して

「とてもよい授業でした。」←何よりでした。

「ムダに資料が多い。」←不必要な資料はお渡ししていません。資料をよく読んでいただければ必要性が理解できるはずです。

「教室の移動ありがとうございました。」←暑すぎましたね。私も大学の配慮がありがたかったです。

科目名：地域保健看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：69 回収数：66 回収率：95.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	3.9	3.9	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1

***評価に対するコメント**

地域保健看護学Ⅱ 担当教員

はじめは、ぼやっとしたイメージしかなく難しく感じる科目でしたが、講義の中で自分たちでワークシートを記入したり、活動例を提示してもらうことで徐々に輪郭がつかめるようになりました・・・略」と学生よりコメントいただきました。個人ではなく地域全体が看護の対象であるという広すぎて何やらよくわからない、まさにぼやっとしたイメージの輪郭をみえるようにするのが私の使命であると考えます。そのためには、受身の講義ではなく、問いかけを多くさせていただきました。また頭をフル回転させるためにワークシートも準備しほんの少し授業の中で苦勞を味わってもらいました。その結果の今回の評価だったと思います。広い視野で予防の段階から人々の健康を考え、光の当たらない、声なき声に耳を傾け、だれもが安心できる地域づくりができるような看護職になって欲しいと思いながら授業を進めましたがその思いが伝わったような気がします。全体的に高い評価を得られ、学生のみなさんの努力に感謝したいと思います。

科目名：老年看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：57 回収数：56 回収率：98.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.9	3.4	4.1	4.0	4.1	4.1	4.3	4.2	4.2	3.9	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

老年看護学Ⅱ 担当教員

総合評価は、4.1で学生はおおむね満足していたと言える。科目構成、科目内容に対する評価はすべて4点台であり良い評価であったが、問12のみが3.9でやや低く、学習意欲や主体的な学習を促すよう今後さらに工夫したい。

科目名：国際保健看護論（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：69 配付数：66 回収数：58 回収率：87.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.7	3.8	3.3	3.6	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	3.8	3.9	4.2	4.0

***評価に対するコメント**

国際保健看護論 担当教員

国際保健看護論は、新設科目でグローバル社会における日本の現状をとらえ、看護職として国際的な視点を持って保健・看護について考えることの必要性を理解し、看護が世界とつながっているか、について説明できるようになることを目的としました。出席状況は良く、興味と関心の高さを感じました。今後は、参加者自身が問題意識を持ち、予習・復習につながるような有意義な講義を工夫してゆきたいと思います。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：67 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.5	3.8	2.7	3.9	4.0	3.9	4.2	4.2	4.3	4.2	4.1	4.4	4.3

***評価に対するコメント**

医療安全論 担当教員

医療安全論は本年度より必修科目になり、インフォームド・コンセントを含め医療安全の基本的な考え方等について視聴覚教材や資料を用いて教授し、グループワークによる実際の事例の検討も実施した。

学生による授業評価は、科目構成・科目内容が4.1～4.4、総合評価も4.3と満足度が高く、課題レポートにおいてもより深く思考し、医療安全の重要性と看護の責任・責務を強く感じたことを述べている。また、第4学年の臨地看護学実習が概ね終了した時期の実施は適切であると思う。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：111 回収数：104 回収率：93.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.8	4.6	4.4	4.5	4.5	4.7	4.5	4.3	4.6	4.2	4.1	3.7	4.2	4.4	4.6	4.5	4.5

*評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

総合ポイントは4.5で、全体としてはほぼ満足という評価でした。科目名は基礎生物学実習ですが、ヒトや動物の細胞・組織を使った顕微鏡観察、動物の解剖と発生、DNAの電気泳動など基礎医学的な内容をできる限り取り入れています。評価表の感想を読むと、実習の早い段階で行う動物の解剖はとりわけ印象的なようで、これまで写真でしか見たことのなかった内臓諸器官にじかに触れて感じることで学生たちは医学部へ入学したという実感を持つようです。この実習で初めて白衣を着用しますが、これも気持ち的にプラスの効果があるようです。教員側の姿勢として、実習経験のほとんどない初年次学生が対象であることから、常に3～4名の教員が学生の近くを回って質問に対応するよう心がけています。今回の評価の中に、1回あたりの説明が長すぎるために内容が十分に理解できなかったという意見が複数ありました。この点は改善いたします。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：110 回収数：95 回収率：86.4%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.9	4.7	4.3	4.7	4.4	4.2	3.7	3.9	4.4	3.9	3.9	3.7	3.6	4.1	4.4	4.3	4.1

*評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価で初めて4を超える4.1の評価を頂きました。今年度は改修工事のため前期（昨年度までは後期に開講）に開講されることになり、一部、医用物理学の予習となったものもあります。昨年改善のみられた問9（関連する講義科目との対応）の評価が0.4下がったのは、このためでしょう。しかし、学生は皆、例年以上に意欲的に取り組んでいた印象があります。昨年大幅に改善した問3（実習への参加意識）と問14（今後の学習意欲）は高評価を維持し、問13（課題に関して）の評価も上昇しています。前期開講の良し悪しは今後検討が必要です。その他の評価は概ね昨年を上回りました。今回の評価を維持しつつ、更なる実習改善に努めていきます。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：109 回収数：94 回収率：86.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.8	4.6	4.5	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.6	4.4	4.1	3.9	4.0	4.0	4.4	4.4	4.1

***評価に対するコメント**

生化学実習 担当教員

生化学1, 2における生化学分野の講義が第2学年前期に集中することにあわせ、その過程で実習を展開するものとしてカリキュラムが計画されている。生化学1の試験を実習直前に行ない、実習実施に不可欠な知識を確実に身につけていただき実習に取り組めるようにもくろんでいる。これにより、生化学および基礎医学研究に対する親和性と興味、理解の促進に繋がったと判断される（問9：4.4）。『あなた自身について、（問1～3）の高い評価値（4.8, 4.8, 4.6）に顕著に現れたように、皆さんが自ら興味を持って積極的に実習に取り組んでくれたことは教員としてたいへんありがたい。他の評価項目（実習計画・内容・環境、総合評価）のいずれも、問13（提出物の内容・量）が3.9であった以外、4.0～4.5と良き評価を得た。指導担当者の指導能力および指導担当者間の差異・連携の適切性についても、『緻密な連携による丁寧な実習指導』を目指し改善を積み重ねてきた結果、評価点（問7, 8：4.4, 4.3）および自由記載コメントにも良い結果として現れた。また、各教員それぞれが持つ高くユニークなポテンシャルを感じることができた学生の皆さんも多くいたことはたいへん喜ばしい。2週間の長丁場にもかかわらず集中を切らさず取り組めたこと、またチームワークの重要性を認識できた方が多くいたことは、実習の他の側面としての意義も十分果たされたと感じている。一方、皆さんが実験や解析を進める上で直面する数々の問題については、まずは、自ら解決するための思考と試行を実践するよう、今後も心がけてほしい。臨床医としてまた医学研究者として将来の活躍を期待される皆さんには、自身の問題解決能力と姿勢を高めるよう、そして論理性や創造性をさらに培っていくよう期待したい。そのためのお手伝いが、学生と教員の接触の場である実習を通してできれば教員としてたいへんありがたいと考えています。

科目名：骨学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：105 回収数：94 回収率：89.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.8	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3	4.2	4.2	4.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.3

***評価に対するコメント**

骨学実習 担当教員

骨学実習は本年度新たに脳神経外科学講座に参加をお願いし、頭蓋骨の実習時間を2倍に増やす等の改善を行った。その結果、学生評価における総合評価は昨年度と変わらなかったが、実習計画、実習内容、実習環境についての評価は概ね0.1～0.2ポイントの上昇を示し、コーディネーターとして満足している。本年度は実習時期が大変暑く厳しい環境での実習となった。講義実習棟の改築において改善をお願いしたい。

科目名：組織学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：115 配付数：114 回収数：60 回収率：52.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	5.0	4.7	4.5	4.7	4.1	4.5	4.3	4.6	4.6	4.2	3.9	3.8	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

組織学実習 担当教員

組織学実習では、プレテスト、レポート、スライドテスト、出席の4つを総合して成績評価を行うため、受講学生には、予習・復習も含め、かなりの学習量が要求される。それが問1－3（学生自身の自己評価）での数値の高さ（ほぼ5点）に現れており、我々教員も、今年度の学生の努力を高く評価している。幸い、今年度の受講学生にも実習の目的や意義をよく理解していただけたのか実習企画全体に対する評価も悪くないので、来年以降も実習方法、成績評価方法を変えずにこの科目を進める予定である。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：120 回収数：108 回収率：90.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	4.9	4.2	4.2	4.5	4.3	4.0	4.1	4.2	4.3	4.1	4.2	4.0	3.8	4.0	4.3	4.2	3.9

***評価に対するコメント**

微生物学実習 担当教員

本実習では、これまで、実習オリエンテーションで学生諸君に「実習内容の事前確認」をするように指導してきましたが、これを確実に実践してもらうための1つの方法として、本年度から「予習レポート提出」方式を始めました。その結果、評価項目1の「予習」は平均点が4.7と確実に例年より上昇し、この点は改善が見られました。一方で、実習手技等に関する「説明が長過ぎる」とのコメントが24件と、例年以上に多く寄せられました。「病原微生物を扱う実習の安全性確保」を担保しながら、「予習レポート」と「解説時間」との兼ね合いをどのようにしていくか、今後もさらに模索し、病原体に関する理解の基盤となるこの実習に、学生諸君が興味を持って参加できる内容とシステムを維持して行きたいと考えています。学生諸君の本実習への能動的な参加と病原体に対する的確なセンスの獲得を期待します。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：114 配付数：85 回収数：47 回収率：55.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.5	4.4	4.2	4.3	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

免疫学実習 担当教員

本年度の評価も昨年とはほぼ同様で、おおむね学生諸君にとっても満足いくものと思っています。各担当講座からの要望も特にありませんでした。明年度から担当教員の変更も機に、これまでの実習の成果と問題点も洗いだして、免疫システムの構成、機能、さらには応用を見据えた新たな項目を検討する予定です。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：126 回収数：107 回収率：84.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.4	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.3	4.4	4.3

***評価に対するコメント**

寄生虫学実習 担当教員

寄生虫学実習では、虫体や病理組織などの形態観察・マウスを使った治療実験・観察テストが行われます。学生諸君が興味を持てるようになるべく生きた材料を提供しようと考えていますが、実習材料の多くを固定標本に頼っているのが現状です。それに関わらず、学生評価では概ね好評です。今後も、楽しく実習ができるように心がけてゆきたいと思います。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：121 回収数：83 回収率：68.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.7	4.4	4.4	4.4	4.2	4.4	4.3	4.4	4.2	4.1	4.0	3.7	4.1	4.0	4.3	4.3	4.2

***評価に対するコメント**

病理学実習 担当教員

例年通り、免疫病理と腫瘍病理で分担して実施した。今回も腫瘍病理担当の実習でスケッチ枚数が多すぎるとの意見が出る一方、スケッチをすることで忘れられなくなったとの声があった。標本の不足、褪色も指摘されたが、今後バーチャルスライドの導入などで対処したい。また、複数の学生が事前に資料を配布して欲しいと要望しており、次年度はこれに応えたい。「将来のために病理勉強します」との勇気づけられるコメントもあった。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：125 回収数：56 回収率：44.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.8	4.6	4.3	4.4	4.3	4.1	4.1	4.3	4.2	4.2	4.0	3.4	3.9	3.9	4.3	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

生理学実習・演習 担当教員

生理学実習・演習は、生理学を臨床的な側面からも深く理解できるように、循環・呼吸・神経病態内科・保健管理センター、臨床検査医学講座および脳機能医工学研究センターの協力を得て行っている。本年度の課されたレポートの量に対する評価は3.4と低く、多くの学生がレポートの量が多いと感じている。それにもかかわらず、総合評価は4.1と比較的高い評価を得た。これは、昨年に続いて、実習に関わる全教員の教育に対する取り組みが評価されたものと考えている。本実習は、テーマごとにレポートの提出を求めている。これは、論理的に考察し、文章を書く機会が以前と比べて極めて減少している現状を憂慮し、各課題に関するレポートの提出を求めることが担当教員のコンセンサスとなっているからである。これからも従来通り、全課題に対するレポートの提出をもとめていきたい。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：126 配付数：125 回収数：54 回収率：43.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	5.0	4.5	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.2	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5

***評価に対するコメント**

薬理学実習 担当教員

薬理学実習は、生体に薬物を投与し、どのような作用が現れるかを実際に目で見て観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることを目的としている。実習では、予想通りの結果を得ることができない場合もあったが、うまくいかなかった場合、その原因は何か？そう考えることを是非心がけて頂きたいと思う。薬理学に限らず、多くの分野で予想と違った結果から新しい知見を得ることが多いからである。今後も、より充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたいと思っている。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：55 回収率：91.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	3.9	4.7	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.1	4.3	4.4	4.0	4.0	3.7	4.2	4.2	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

一番高い評価は演習に積極的かつ真面目に参加しましたか4.7でした。教員から見ても真面目に参加していた印象がありました。一方、技術を十分に習得することができましたか4.4には疑問が生じます。看護技術は一朝一夕に身につくものではなく、あらゆる健康障害のある人に対して援助するためには繰り返し練習する必要があります。この科目はその基礎を学ぶものです。また、技術は一度できても時間の経過とともにレベルが低下しますので、今後学生の皆さんが主体的に練習し、十分に習得することを期待します。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.3	4.8	4.7	4.7	4.6	4.4	4.5	4.2	4.6	4.7	4.1	4.2	3.9	4.3	4.3	4.6	4.5

***評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

概ね4以上の評価であり、学生の皆さんは予習して講義演習に出席し、主体的に学習していました。自由記載でも課題は大変であったが、有意義な学習であったなど学習者としての成長を感じました。シミュレータの不備に関しては、事前に点検をしていますが経年劣化のあるものもあります。関係部署と調整し、学習環境を整えられるよう努力していきたいと思っております。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（小児，母性，精神）（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：42 回収率：72.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.2	4.0	3.7	3.9	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.9	3.9	3.7	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1

***評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

実践看護技術学Ⅱ（60時間2単位）は2009カリキュラムにおいて看護の実践力を高めるため、3年次演習科目として設けられており、今年度は2年目です。学生の総合評価は昨年に比して上昇しており、これは、非常勤の講師の確保によって演習指導がなされたことによるものと思われます。当該領域以外のコメントの記載も見られましたが、学生の声に真摯に耳を傾けさらなる企画内容の充実を図っていきたくと考えています。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
- ④ やや思う（良い）
- ③ どちらとも言えない（普通）
- ② あまりそう思わない（あまり良くない）
- ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.6	4.1	4.3	4.2	4.6	4.6	4.2	4.6	4.4	4.5	4.6

***評価に対するコメント**

基礎看護学実習Ⅰ 担当教員

すべての問いで4以上というよい評価でした。これは学生の皆さんが真摯にかつ積極的に実習に臨んだ結果と考えます。実習ガイダンスの時期に関して意見がありました。毎回効果的にガイダンスが進められるよう日程等の調整をしています。しかし、限られた時間の中でやむを得ず、夏季休業の前後となりました。限られた条件の中でより良い学習効果が得られるよう今後も大学病院看護部等関係部署と連携し、進めていきたいと思ひます。

臨地看護学実習企画に対する学生評価の結果について

教育センター
FD・授業評価部門

平成24年1月から7月までに開講した標記実習では、実習企画に対する学生評価に多くの皆さんからご協力いただいたところです。

このたび、皆さんからお寄せいただいた次の実習企画に対する評価表のうち、一部が回収後の不適切な事務処理（誤って破棄）により、結果として、該当科目の評価が出来なくなる事態が発生してしまいました。

- ・ 老年看護学実習
- ・ 母性看護学実習
- ・ 精神保健看護学実習
- ・ 小児看護学実習Ⅱ
- ・ 成人看護学実習Ⅱ
- ・ 在宅看護学実習

このような事態は、本来あってはならない事であり、評価に協力いただいた学生の皆さんには、心よりお詫びいたします。

今後は二度とこのようなミスがないよう、細心の注意を払って回収・集計業務を行うよう、管理を徹底致します。

なお、正式な評価は出来ませんでした。実習の更なる充実化のため、教員フィードバックを目的とした学生アンケート調査を、改めて1月7日（月）に実施させていただきました。

平成24年度 医学科第2学年後期編入生入学式

平成24年度医学科第2年次後期編入生入学式が平成24年10月1日（月）に事務局第一会議室におきまして執り行われました。

当日は吉田学長より編入生に対して祝辞が述べられ、新たに10名が旭川医科大学生としての第一歩を

踏み出しました。

その後、行われたオリエンテーションでは、すぐに編入生同士打ち解け、和やかな雰囲気の中、今後の学生生活に思いを募らせているようでした。



編入生との記念写真



吉田学長の祝辞

リーダーシップ表彰

平成24年12月12日（水）に事務局第一会議室におきまして本学学生リーダーシップ賞授与要項により、平成24年度医大祭実行委員長に対してリーダーシップ賞授与式が執り行われました。

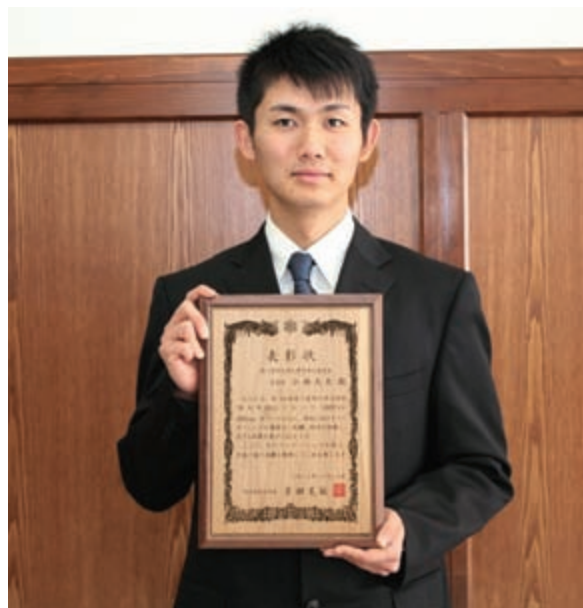
当日は笹嶋副学長より盾が授与され、輝かしい実績に対して表彰が行われました。

リーダーシップ賞授与者は以下のとおりです。

平成24年度 旭川医科大学医大祭実行委員長
医学科第4学年 小林 大 太



リーダーシップ賞授与



医大祭実行委員長 小林大太

「全日本医科学生体育大会王座決定戦で優勝して」

今年の8月、長野で東日本医科学生体育大会、山口で全日本医科学生体育大会が開催されました。私の所属するソフトテニス部は、東医体団体で男子3位、女子6位、そして全医体女子団体優勝という近年稀にみる好成績を収めることが出来ました。

歴代の先輩方がソフトテニス部を強いチームへと育ててくださり、今年大きな成果として実を結んだことを大変嬉しく思っています。今回ソフトテニス部の活動を評価していただき、かぐらおかに掲載される機会に恵まれたので、大学で部活に入ってから良かったと思うことを書きたいと思います。



私たちは医学生として、国家試験を無事に突破し、医師として社会に貢献できるよう、日々学業に取り組んでいます。四年生までは講義室で医学の基礎を学んできましたが、五年生から病院で実習が始まり、いよいよ医師として働く日が近づいているのだということを実感しています。また、実習と平行して国家試験の勉強もスタートしています。今年は実習と勉強に追われ、あっという間に過ぎた一年だったように思います。部活にかかる時間が大幅に減り、効率的に短時間でレベルアップしなければならず、体力や精神面で辛い時期もありました。しかしこうし



医学科第5学年 竹口史織

て振り返ってみると、夏に精一杯頑張ったことが、今の自分にとって自信になっているように思います。

旭川医科大学は部活動の盛んな大学です。ソフトテニス部を例にとると、夏場は週五回の基礎練習があり、大会前は夜遅くまで試合練習を行っています。数ある部活の中でも練習は多いほうだと思いますし、休日を自主練習に費やす部員も多く、部活をすることによる時間の制約は確かにあると思いますが、それでもこれまで部活を続けてきたのは、一つのこと集中して打ち込み、試合という真剣勝負の場で日々の成果を発揮することにより、心から達成感や喜びを感じられるからだと思っています。勉強については、限られた時間であっても、部活で培った体力、集中力があればカバーできるものと考えています。

また、部員同士の繋がりは得がたいものだと思います。テニスのみならず、勉強や大学生活のことなど、先輩達から話を聞いて何度も助けられました。先輩や後輩、OB・OGの先生方との関わりを通して、多くのことを学ばせていただきました。部活がなければこれほど多くの人と知り合う機会はなかったと



思いますし、将来医師となった時に、共に頑張ってきた仲間は今後も頼れる存在になると思います。

部活は自分を成長させる場だと思っています。なかなかテニスが上手にならない時や、仕事をうまく進められないなど、辛いこともたくさんありましたが、これまで投げ出さず部活を続けたことは、今の自分にとっても、将来の自分にとってもプラスになると思っています。

最後になりますが、医学科女子は今年度の全医体優勝を受けて、来年度の全医体の出場権を獲得することができました。たくさんの方にご支援いただき、今回の結果を喜んでいただけたことを、心から感謝しています。

来年度の大会も、医学科、看護科ともにより良い成績を残せるよう、日々の練習を大切に努力していきたいと思っています。

音楽系団体クリスマスコンサート

平成24年12月15・16日の両日及び18日に本学の音楽系団体である室内合奏団，合唱部，ブラスアンサンブル，ロック研究会のクリスマスコンサートが開催されました。

当日は，あいにくの天気の日もありましたが，OBやOGもたくさんの聴衆の中に見受けられ，後輩たちのパフォーマンスを心配そうに，時折，楽しみながら聴いていました。

試験等日頃の勉強で忙しい合間の練習の成果を発揮すべく，唄に踊りに演奏に，みな，その時間を聴

衆のみなさんに楽しんでもらえるように，一所懸命頑張っている姿が見えました。

年々，学生数が増え，団体のメンバーもそれに合わせて増加していることから，練習時間の調整や練習場所の確保など，担当者にとっては嬉しい苦しみが多いことと思いますが，各団体ともうまく調整しながら，練習を行っております。

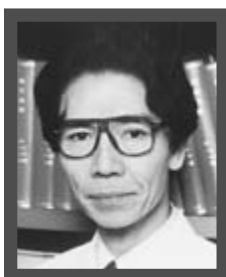
お時間がありましたら，ぜひ一度，お聴きいただければと思います。



教員の異動

H24.10.1	採用	医学部化学	教授	秋田谷 龍 男
H24.11.1	昇任	医学部看護学講座成人看護学担当	准教授	荒 ひとみ
H24.11.1	昇任	医学部看護学講座基礎看護学担当	准教授	一條 明 美
H24.11.1	昇任	医学部物理学	准教授	安 濃 英 治
H24.11.22	昇任	医学部看護学講座がん看護学担当	教授	濱 田 珠 美
H24.11.22	昇任	病院臨床検査・輸血部	講師	赤 坂 和 美

訃報



本学名誉教授小川秀道氏（享年81才）には、平成24年12月29日（土）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和51年4月本学初代麻酔学教授に就任され、平成10年3月定年により退職、同年

4月本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献をなされました。

また、学術研究面では、麻酔の安全性に関する研

究を永年続けられるとともに、ペインクリニックの分野に東洋医学を取り込み、特に漢方薬による慢性疼痛疾患に関する研究にご尽力されました。

更に、東洋医学・漢方医学との関わりにより、多数の中国人留学生を受入れるとともに、南京中医学院をはじめ中国各地で客員教授として医学教育にあたられ、その功績は国際的にも高く評価されていました。

豊富な知識と経験並びに卓越した手腕等によって、医療人の養成及び医療技術の向上に貢献され、平成24年11月瑞宝中綬章を受章、昭和60年9月北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞される等、その功績はまことに顕著でありました。（総務課）

インフォメーション

本学の行事予定（1月～3月）

後期試験週	医 学 科	1・2・3年	（2月12日～2月21日）
	医 学 科	4年	（1月22日～1月23日）
	看護学科	1年・2年	（2月12日～2月21日）

学力試験週	医 学 科	5年	（2月4日～2月15日）
-------	-------	----	--------------

平成25年2月15日 医学科白衣式

平成25年3月25日 学位記授与式

平成25年度授業料の一括納付について

授業料は、前期分を納付する際に後期分も併せて年額として一括納付することができます。希望される方は、下記の期限までに印鑑を持参のうえ、事務局管理棟1階の会計課出納係へ申し出て下さい。

申込み期限 平成25年4月10日（水）

※一括（年額）納付については、毎年手続きが必要となりますので注意して下さい。

（会計課出納係）